



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュースレターNo. 145

2017年9月



2017年度 ME0 プログラム参加報告

会員 森川拓弥

はじめに

北朝鮮によるミサイル発射実験、朴前大統領の逮捕、文新政権発足と何かと混乱と有事が迫っているように報道される韓国であるが、日本の報道とは正反対で平凡な空気が流れていた。特に、北朝鮮による軍事的緊張に関しては、日本国内においてはJアラートが発動して東京メトロが止まったりしたが、韓国国民全体がまたいつものことと言った次第で受け流しているように感じられた。そんな中参加した今回のME0 (Military Evangelism Observation) プログラムについてであるが、(期間は2017年6月19日(月)から同年6月26日(月)まで)主に韓国オサンリ祈禱院とソウル市内で行われた。

ME0 プログラムに参加した国々は、アジアからはバングラデッシュ、パキスタン、スリランカ、東ティモール、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、中国、台湾、日本、旧ソ連圏からはロシア、ウクライナ、カザフスタン、キルギスタン、アフリカからはウガンダ、リベリア、ナイジェリア、南アフリカ、欧米からはアメリカ、イギリスと、インストラクター、オブザーバー、参加者含めて非常に大所帯であった。

ここでは主に①ME0プログラムの大まかな学習内容について、②韓国軍教会施設、韓国研修について、③他の参加者、サポートメンバーとの交流についての3つの着眼点に注目しながら自分の所見を述べてゆくことにする。

①ME0プログラムの大まかな学習内容について

今回のME0プログラムにおける中心的テーマは、ケーススタディであった。具体的に述べると、ある架空の国を設定してそこでどのようにイエス・キリストの福

音(MCFの活動)を広げていくかという事を小グループに分かれてディスカッションし最後に代表者がプレゼンをするというレッスンである。自分のグループは信教の自由、MCFの組織活動が認められているが、最近停滞しているある国を想定して、どのようにリバイバルをしていくかと言うことが大きな焦点であった。

ある参加者の一人が、「はじめはイエス・キリストの御言葉だけでなく、兵士の様々な社会的個人的問題、例えばPTSD、兵営生活の悩みなどをサポートすることが重要ではないか」という意見が出された。このことは非常に重要な視点である。まず、はじめに人は教義や信仰よりも、その人の行いや言質に注目するものである。また、主の御言葉にあるように「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい」(マタイ23章11節)は我々キリスト者にとって基本倫理とも言ってよい。これらをふまえることによって、自衛隊内での福音宣教をより刷新出来るのではないだろうか。

ケーススタディを参考に最後に行われたのはMCF参加メンバーによる各国の近況報告である。様々な国の文化、習慣などが教授され宣教活動だけでなく地域



ME0プログラム集合写真

研究の面においても非常に勉強になった。ただ、時間が押してしまい、自分の発表（日本の近況報告）は1、2分という短い時間でプレゼンしてくれという状況になり、2019年のアジア大会のこののみをアナウンスすることしかできなかつたが、重要な点を強調できたので結果的に良かったと思われる。

②韓国軍教会施設、韓国社会について

韓国では従軍司祭制度が確立しており、福音宣教をオープンにして出来るということは驚愕であった。主に2つの教会で行われたミサ（礼拝）と洗礼式に参加したが、前者は福音主義のメガチャーチで数千人が会場に集まり、韓国陸軍参謀総長が来賓として北朝鮮情勢を含んだ政治神学的祝辞を述べた。日本においては防衛大臣や統幕長のちょっとした発言が大問題になる状況なので、政教分離や政軍関係のあり方がわが国と大分違う事が読み取れた。また、洗礼式においては、按手のサポートと言うとても重要な役割を外国人の自分にもさせてもらいとても貴重な体験をした。

次に韓国研修についてであるが、主にDMZ、戦争記念館、仁川上陸作戦記念館と朝鮮戦争における南北分断の歴史を中心に体感した。DMZにおいては、今も緊張が続き朝鮮戦争はまだ休戦中であり終わっていないこと、戦争記念館においては独立後の南北分断から休戦にいたる歴史的経緯が、そして仁川上陸作戦記念館では、守勢に立たされていた西側陣営がマッカーサー元帥の奇跡的な作戦によって攻勢に転じたこと、まさに朝鮮戦争についての戦史的教訓を全て学んだといえる。

③他の参加者、サポートメンバーとの交流について

様々なメンバーと交流しとても貴重な体験をしたが、特に自分をサポートしてくれたキム・ユージーさん、Le Khanh Tanさん、パクチョンヒさんに感謝した

い。

キム・ユージーさんは、イギリスの大学院で国際関係論を専攻し9か国語も喋れる才女で、英語が不自由な自分を献身的にサポートしてくれた、また哲学、文学、政治学に造詣が深く、趣味も自分と共通だったのでとても会話が弾み有意義で大変勉強にもなった。

Le Khanh Tanさんはルームメイトで、英語がお互いに不自由でコミュニケーションに苦勞したが、彼のホスピタリティやデボーションは言語の壁を越え互いに様々な場面でとても意気投合した。

パク・チョンヒさんはホームステイのホストファミリーで、交通の便の悪い仁川上陸作戦記念館にわざわざ連れて行ってくれたり、空軍PXのサウナにも案内してくれたりした。このように献身的なキリスト者達の交流とサポートのおかげで充実したトレーニングを受けられて「善きサマリア人」の実践を感じた。

おわりに

ME0プログラムによって、一番得たものはキリスト者同士の分かち合いであろう、教会論的に言えば、全てのキリスト者は主によって呼び集められた兄弟姉妹であり、見えない紐帯で結ばれている。

つまり我々は国籍や人種は違えども、イエスキリストの出来事に預かりながら、善き兵士として善き愛国者としてそして善きキリスト者として歩もうと決めた者たちである。ME0プログラムまさに軍人キリスト者達の更なる霊的成長を促すため、主の見えざる計画が働いていると言っても過言ではないだろう。

最後にこのような機会を与えた主と皆様へ改めて深く感謝したい、アーメン。

なすべき使命と求められる謙虚さ

前東京基督教大学教授、北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会会長 西岡 力

私たちの人生の目的は、主が備えてくださった「良き行ない」をこの世で実践することです。その「良き行ない」を実践するにあたり、常に主の前に敬虔でなければなりません。その二つを私がどのように教えられたかお話しします。まず、第1の、私たちの人生の目的は主が備えてくださった「良き行ない」をこの世で実践すること

だ、ということについてです。

マタイ 25章 14節「天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。」

私たちはしもべ、主人は神様です。私たちは主人である神様から神様の財産を預けられてこの地上での生活を送っています。いつか、主人が帰ってくる。そのときま

ですが私たちの地上での人生なのです。私たちの持っているものは神様から預けられているもの 私たちはあくまでも「管理者」です。

エペソ書2章10節「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」

ここで「行ない」という語が3回も出てきます。すぐ前の9節で「行ない」によって救われたのではないと教えながら、救われた後のクリスチャンの人生の目的は「主があらかじめ備えてくださった良い行ないをすることだ」と私たちに迫ってきます。

その「良き行ない」を実践するにあたり常に自分が全て分かったとか自分が全て正しいなどと思ってはならない、私たちは「心の思い計ることは、初めから悪である」「人間に過ぎない」存在であることを心に刻み、主の前に敬虔でなければなりません。

人間にしか過ぎない私たちはこの世で完全なる「良き行ない」すなわち「善」あるいは「正義」を実現することはできない。それができると思った瞬間に私たちは神から離れ、自分を主としている。私をはじめ、人間というものはどこまでも自己中心で罪深い存在です。

そのことを教えてくれたのが創世記でした。6章5～6節「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。」とあります。それで洪水が起こされます。

洪水の水が引いた後、ノアが祭壇を築き供え物をしたそのときも主は人の心に悪があると指摘している。8章21節「人の心の思い計ることは、初めから悪であるからだ。わたしは、決して再び、わたしがしたように、すべての生き物を打ち滅ぼすことはすまい。」洪水前とどこが違うのでしょうか。

洪水前は「みな」「いつも」「悪いことだけ」とされています。洪水後はやはり「悪」ですが「はじめから」とだけい

われていて、「みな」「いつも」「悪いことだけ」ではないから、ときには「悪」でないこともあるとも解釈できます。「初めから悪であること」これは原罪です。

そのことをノアは分かったから祭壇と生け贄を必要とした。人間はみな救われたクリスチャンでも、牧師でも神学校教師でも、生まれつきの罪人だ。ただ、救われた者はそのことを自覚できる。自分が罪人だと知っているから、主は再び滅ぼさないと言われたのではないかと、私は教えられました。傲慢になるな、謙虚であれという教えです。

私たちは「良き行ない」に歩むべきです。しかし、いつも自分の判断は完全ではないという謙虚さが必要です。イエス様は「神の国とその義をまず第一に求めなさい」と言われています。「求めなさい」と言われていることに私は大変教えられています。「実現しなさい」とは言っていない。人間の力で100%の善、正義、良き行ないを実現することはできないのです。

しかし、聖書は「社会と関わるな」とは言っていない。私はこれまで学生に「私の考えを覚えても仕方がない。クリスチャンだからといって、現実の問題について全て意見が一致することはない。なぜなら神の義を求める私たちは人間に過ぎず、完全ではないからです。だからそれぞれが、神にあって祈りつつ情報を集め、事実が何なのかを調べて意見を出す。間違っていたら修正することしかない」と教えて来ました。

たとえば拉致問題についてクリスチャンとしてどう考えるべきかという問いに対してクリスチャン学者である私に聞けば答は出るのか。私はそうは思いません。私の語ることは私個人の答である。それぞれが自分の答えを考えなければならない。そして、ただ自分は人間に過ぎない者だと思って毎週教会に行き祈るべきだと。しかし一方で、私たちはこの地上でも神の栄光を顕すように努力するべきであり、求めるべきだと思っております。

2017年度総会報告

6月10日(土)、2017年度コルネリオ会総会をエデン教会で実施し、2016年度の活動報告・会計報告と2017年度の活動計画・予算計画及び役員人事の審議を行いました。

した。

2017年度の活動計画、役員人事、会計決算及び予算は次のようになっています。異議のある方は会長(石川

信隆)宛て1ヶ月以内に申し立ててください。

1 2017年度コルネリオ会活動計画

1 方針

- (1)2017MEOプログラム(6月19日-26日)に森川拓弥兄が参加する予定であり、経済的な支援を行う。
- (2)2017年EA Interaction(8月9日-12日、モンゴル)の参加者(森川拓弥兄、石川信隆兄予定)へ参加費の経済的な支援を行う。
- (3)毎月1回の例会を通して、聖書の学びおよび聖徒の交わりを行い、お互いに軍人クリスチャンとして励まし合う。
- (4)ニューズレターの発行・ホームページの整備・インターネットの活用を通じて、コルネリオ会の存在を広く知らせ、会員の獲得に努める。
- (5)2019年東アジア大会の準備(日時・場所・講演者・賛美者・案内書など)を進める。
- (6)いつも聖霊様の力を借りて新会者を歓迎する。

2 具体的活動

(1) 例会

- ア 例会は、原則として毎月第2土曜日に開催する。
- イ 学び会は会員の霊的成長につながる集会成为るようなプログラムとする。また聖書の学びに加え、祈り会によって現役会員の使命が達成されるように、コルネリオ会の魅力化を図る。
- ウ 新来訪者を歓迎し、共に学び交わる環境を醸成していく。

(2) 広報

- ア 会員の証しや学び会での恵み等、ニューズレターの記事をさらに会員の霊的成長につなげる内容に改善し、会員の会活動への参画意欲を醸成して行く
- イ 中央からの情報発信だけでなく、地方でのコルネリオ会活動(沖縄支部・関西支部・東北支部)の情報提供にも心がける。

(3) 宣教

- ア ホームページにコルネリオ会の例会・総会の議事録を載せる。また各国AMCF等のホームページの日本語での紹介等を実施して会員等が活用しやすいホームページ作りに着意する。
- イ 韓国軍人クリスチャンおよび防大生との交わりを継続し、信仰を深め励まし合う。
- ウ 宣教団体との協力を継続し、会員の霊的成長につながる情報を提供していく。

(4) 国外活動への参加と支援

- ア AMCF(世界軍人キリスト者の会)及びACCTS(AMCFの教育支援機関)との連絡・調整を維持し、相互の意思疎通を図る。
- イ 2017AMCF EA Interaction(8月9日-12日、モン

ゴル)に参加する森川拓弥兄・石川信隆兄の参加費(US\$250x2=\$500=50,000円)を支援する。

ウ 2017年MEOプログラム(6月19日-28日、韓国)に参加する森川拓弥兄の参加費(US\$20=2000円))を支援する。

エ 2016年10月に就任した東アジア会長 Andrew Tzeng(台湾)に協力・支援する。

(5) 会計

ア 活動の運営資金が備えられるよう、ニューズレター・ホームページ等を通じて祈り求めるとともに、支援者の獲得に努める。

イ 予算の効率的な使用に心がける。

2 役員人事

役職	2017年度
会長	石川信隆
副会長	今市宗雄、中野久永
総務	森川拓弥、関博之、圓林栄喜 檜原菜都子
渉外	中野久永、藪内隆志
広報	圓林栄喜、芝 祐治、中村誠一(沖縄支部)、松山暁賢(東北支部)
会計	長濱貴志
監査	玉井佐源太、滝口巖太郎
教職顧問	金学根、井草晋一、徳梅陽介
名誉会長	矢田部稔

3 2016年度決算

(2016. 4. 1~2017. 3. 31)

1 収入	献金一般	¥295,845
	クリスマス献金	¥0
	利息	¥24
	前年度繰越金	¥730,437
	合計	¥1,026,306
2 支出	講師・謝礼費	¥35,000
	ニューズレター作成・発送費	¥72,353
	新聞雑誌広告費	¥0
	集会費・例会会議費	¥2,160
	慶弔費	¥0
	接待交際費	¥19,560
	2016アジア大会参加費補助	¥15,000
	事務通信費	¥5,395
	雑費(振り込み手数料)	¥5,922
	献金(国内教会・海外へ)	¥29,800
	コルネリオ会記念誌発行・送付	¥168,000
	小計	¥353,190
	2016年度への繰越	¥673,116
	合計	¥1,026,306

4 2017年度予算

(2017. 4. 1~2018. 3. 31)

1 収入	献金一般	¥300,000
	クリスマス献金	¥5,000
	利息	¥50

	前年度繰り越し	¥673,116
	合計	¥978,166
2 支出	講師等への謝礼・支援費	¥40,000
	ニュースレター作成・発送費	¥50,000
	新聞雑誌広告費	¥10,000
	集会／例会費	¥15,000
	慶弔費	¥20,000
	接待交際費	¥10,000
	旅費・交通費	¥10,000
	2017ME0+Interaction 参加費補助	¥52,000
	事務通信費	¥5,500
	雑費（振り込み手数料）	¥6,000
	献金（韓国・モンゴルへ）	¥20,000
	次年度への繰越	¥739,666
	合計	¥978,166

いつも献金をありがとうございます。

献金者名簿は紙面の都合上次回掲載いたします。（編集子）